

K.wings News



平成6年12月

秋期大会終わる

3年、5年、女子のそれぞれの秋期大会が終了しました。結果をご存じの方も多いと思いますが、報告致します。

3年生TEPCO杯

3年生のTEPCO杯は、予選トーナメント決勝で結局先制に敗れ、2位トーナメントに進出しました。そして、みごと優勝しました！2位トーナメントの優勝ということは、なんと川崎市でベスト5に入るということです！

子供達、ご父兄の皆様おめでとうございませう。そして、ご苦勞さまでした。（次の4年生大会では優勝を狙いませう！）

5年生松村杯

続いて5年生松村杯は、予選トーナメント2勝1敗で見事決勝に進出しました。決勝トーナメントでは1回戦、さきぬまと戦い、1対0で惜敗しましたが、近年まれに見る良い試合だったということです。

確実に全員が上手になっているようで、今後の試合に期待が持てる内容だったようです。（来年は、絶対さきぬま・南百合を倒せよう！）

女子松村杯

春の大会で優勝した女子は、この大会でも優勝を目標に頑張っておりましたが、宿敵南百合丘リリーズに敗れ、2位となってしまいました。（他の試合は勿論、全勝して、最後は南百合丘と得失点の争いになりましたが、わずかに及ばず、無念の準優勝でした）

しかし、結成2年で、ここまで上手になった子供達を素直に喜ばせてあげたいと思います。おめでとう、そして、ご苦勞さまで！

女子県大会

松村杯が終了してすぐ、今度は県大会がありました。対戦相手はあざみ野と鶴峰。県でも名が通った強いチームでした。善戦しましたが1敗1引き分けで2次予選には進めませんでした。5年生にとっては最後の公式戦でしたが、良い思い出になってくれればと思います。

コーチ会だより

10月31日と11月4日、地区会館でコーチ会が開かれました。

10月のコーチ会は、秋期大会が終了した時点での各学年ごとの反省と、今後の中期練習計画の作成が主な議題で、12月のコーチ会は来年度のコーチ会の組織をどのようにするか主な議題でした。

秋期大会の反省

結果については、おおむね満足できるが、課題として、ボールを止める（コントロールする）技術が全体的に不足している、との結論に達しました。

そのほか、各学年固有のテーマもいくつか上がっていましたが、来年4月までの練習計画の中で消化していくことになりました。詳しい内容についてご質問のある方は、ヘッドコーチ・副監督まで遠慮なくどうぞ。

コーチ会決定事項

このコーチ会で、次の項目が決定されました。連絡網で流れましたが、再度確認をお願いします。

1. 練習の時には、必ず「すむあて」を着用すること
2. 練習の前には爪を切ってくるようにすること
3. コーチの練習（ミニゲーム）を毎月、第2土曜日 13:00 から 14:00 まで榎が谷小学校で行う

来年度のコーチ会組織について

本年度のコーチ会の組織（監督、副監督、ヘッドコーチ、コーチ）体系についての、反省点と意見を出席者全員に出してもらいました。

副監督の役割について質問も出ましたが、来年度も現状の組織体系でゆくことが大筋で確認されました。監督1名、男子低学年副監督1名、同高学年1名、女子副監督1名に、各学年ヘッドコーチの体制で来年度も頑張っていきたいと思えます。（誰がやるかの決定については、次回以降に持ち越されました）

育成会だより

今年も残すところあと少しとなりましたが、育成会のイベントとして年末のなべ会が残っております。運動会（2周年記念）、忘年会も無事終了し、なにかと忙しかった今年も暮れようとしております。

運動会（2周年記念）無事終了

10月30日、東高根森林公園でWingsの運動会が開催されました。総勢140名以上集まり、PK合戦での親子対決やコーチの珍プレーなどもあり、盛り上がった運動会となりました。準備に東奔西走された役員の方、本当にご苦労様でした。尚、1年のヘッドコーチである宇津木さんより、記念品が提供されました。ありがとうございました。

3年、5年「ごくろうさま会」開かれる

秋の大会が終了し、頑張った子供達をねぎらう「ごくろうさま会」が11月5日、市民プラザで開催されました。女子は県大会が残っていたため後日となりましたが、みんな、次の目標に向かって頑張るよう、代表・監督からお話がありました。

忘年会開かれる

12月3日、19:00より「レストランたなべ」で忘年会が行われました。参加は30数名と、Wingsの集まりにしては少ない人数でしたが、カラオケやサッカーの話、その他大いに盛り上がりました。21:00までははずでしたが、なんと午前2時近くまで「たなべ」に残っていた人もいます。翌日の練習は大丈夫だったのでしょうか？

一般女子の部結成される

来年度に予定しておりました「一般女子」のチームが、多摩高校の生徒を入れた形で結成され、本年度の川崎市の女子リーグに参加することになりました。中学生以上の女子で構成されるチームで、リーグの少女達が中学に入ってもサッカーができる環境を作るためのチームです。本年度は、「川崎Tウイングス(KTウイングス)」の名前で登録しております。ウイングスの女子部の中の1つの組織となりますが、規約その他の改正が必要な部分は、3月の総会にかけて決定し、それまでの間は、部費を徴収した上で暫定的に、所属はコーチ会ということで、女子部と一緒に活動することが運営委員会で確認されました。

この件については、早々にコーチ会、育成会を開催して、全員に内容を理解してもらいたいとのことでした。

尚、川崎市女子サッカーリーグは11月23日よりすでに開始されており、KTウイングスは3戦して残念ながら3敗してしまいました。しかし、得点も3点あげており、今後の成長が楽しみとなっております。

選抜大会について

男子、女子とも、選抜のメンバーがウイングスから選ばれております。自分のチームを離れて、他のチームの優秀な子供達と同じフィールドでサッカーをやることにより、子供達はいろいろな勉強をして戻ってきてくれます。選抜メンバーに選ばれること自体が非常に名誉なことなのですが、今回はその概要について簡単に説明したいと思います。

男子川崎選抜

6年生が対象で、川崎市の少年サッカー登録団体から、毎年20名程が選ばれます。セレクションは毎年6月の地区選抜の大会に行われ、「川崎市の代表」として、いろいろな招待大会に参加できます。

川崎市には現在56の少年サッカーチームがあり、1学年平均20名の子供が在籍しているとするならば、なんと1120分の20(1.7%)の合格率となります。(本年度ウイングスには男子6年生がいないため、対象の子供はおりません)

男子地域選抜

川崎選抜を選ぶ前に各地域(区単位)で優秀な選手を集め、地域選抜としてチームを作り、地域対抗戦を行います。6年生が対象で毎年6月頃行います。この選抜に残った子供の中から、川崎選抜が選ばれます。(同じく、本年度は対象の子供がいないため、参加をしておりません)

男子南北選抜

正確には、12月に行われる川崎市の市長杯(南北戦)のための選抜メンバーです。対象は5年生で、高津区は南部チームに属します。

今年は、5年の岩崎君と鈴木君が選手として選ばれました。セレクションは1月上旬に行われ、今回は49名中14名が合格しました。(49名といっても、全員が各チームのエースプレイヤーですから、その競争率は大変なものです)

男子川崎カップ選抜

3月末に行われる川崎カップのための選抜です。2月頃セレクションが行われ

ます。川崎カップは、毎年この時期に、読売クラブや、日産FC、清水FC等の全国クラスのチームを招待し、川崎市のサッカー協会が主催する招待試合です。

対象は5年生で、南北選抜に合格した子供達（計32名）以外にも13名の枠があり、選ばれると当然のことながら読売クラブや日産FCと試合ができます。

女子県選抜

続いて女子ですが、女子はいきなり県のレベルの選抜になってしまいます。川崎の男子選抜と同じように、まず、地域選抜があり、そこで優秀と認められた子供が県選抜の選手として残ります。対象は6年生で、ウイングスからは穴倉さんが選ばれ、現在選抜選手として活躍中です。選抜選手に選ばれると、練習会の他、各地の招待大会に参加できます。（本年度は8月の横須賀招待、1月の神戸招待、2月の埼玉招待等があります）

女子地域選抜

県選抜の6年生を選ぶ前段階として、5年生と4年生対象の地域選抜があります。

8月頃から各地域（川崎は、横浜、横須賀と一精となり、第1地区となります）でセレクションを行い、12月の地域選抜大会に向けて2チーム（30名）を選抜します。本年度はウイングスからは5年の柳原さん、岩崎さん、宇津木さん、4年の神山さんが選ばれ、12月10、11日の選抜大会に出場します。尚、この地域選抜チームの監督を、女子部の三田副監督が務めております。

以上の選抜とは別に、今、川崎市の女子サッカーチームとして、「川崎少女」チームを作っております。サッカー協会の後押しで、川崎市の6年生女子のチームを作り、一般女子のリーグ戦を戦ってみようという大胆(?)な試みです。ウイングスからは6年生7名全員が参加し、3戦全勝という成績です。リリースから1名、GHJから3名、大谷戸から1名、野田から5名の計17名です。この中から、来年ウイングスの一般女子部（K.T.ウイングス）に入ってくれる人ができれば・・・と思いつつ、これも、三田さんが監督として頑張ってくれております。

選抜大会は能力に優れた一部の子供達だけのためにあるものではありません。自分のチームではエースで天狗になれる子供が、自分の未熟さや、他の子供達の素晴らしいさに気づき、より高いレベルを目標とする動機付けにすること、選抜に選ばれなかった子供達にも、自分達の中から選抜選手が出たんだ、という自信と誇りを持たせるよう指導する姿勢がコーチ、父母とも必要だと思います。

選抜から戻った子供達は、きっとチームのためにいろいろな財産を残してくれます。選ばれなかった子供達も、選ばれなかったことを悲観するのではなく、「あいつらに追いついてやろう」といった、良い意味での競争心を持って初めて、チームとして選抜に参加する意味が出てくるのではないのでしょうか？

(監督談)